

日時 : 2012 年 2 月 25 日(土) 14:00~

場所 : 甲南大学

出席者: 岸田委員長 椎名委員 阿部委員 松本委員 木本委員 河崎委員 金川委員  
(事務局) 井端事務局長 森下主幹

#### 1) 授業の点検・評価・改善

会計学教育における教育改善モデル(その1)、(その2)について、それぞれ「授業の点検評価・改善」について検討されました。[資料②.1、②.2 参照]

##### (1) モデル(その1)の授業の点検・評価・改善について

- ① これは、「2.2 授業の仕組み」に示されているように、教員同士、実務家との連携の中で授業をどのように振り返るかということです。この場合、連携の範囲は会計の領域から出ることはできません。他の授業科目としての財務会計、管理会計、会計情報システム等の教員と連携して、実務とのつながりが理解されているかということを振り返ります。
- ② 会計についての総合力をテストしなければなりません。「1.到達度として学生が身につける能力」に示された到達度で評価シートを作成します。平成24年度に本を作成する時点で標準の評価シートの内容を充実させ、編集の段階で入れていきます。今回は枠組みだけです。
- ③ 授業の技法ではなく、カリキュラムのコース設計まで入れることで授業の改善につながります。会計マインドを4年間の授業の中で発展させるために、他分野の教員と役割分担を擦り合わせることが必要になってきます。これはカリキュラム編成の見直しの問題です。会計マインドを取り入れた授業を行ってもらうことが必要です。

以上のような議論の結果、「3. 授業の点検・評価・改善」の文章を次のようにまとめました。

この授業の点検・評価・改善は、各学士課程のカリキュラムフローを再確認した上で、会計学教育の重みづけについて、適宜評価シートを参考に会計学担当教員と他分野の教員及び実務家との連携の中で行う。また、総合的な視点に基づき総括チェックリスト等を用いてカリキュラム改善への提言を行うことにより会計マインドの普及につなげる。

##### (2) モデル(その2)の授業の点検・評価・改善について

- ① モデル(その1)の文章を修正することにします。カリキュラムの問題は、モデル(その1)ほど考えなくても良いでしょう。「他分野の教員」「会計マインドの普及」という箇所は削除します。
- ② 「2.1 授業のねらい」における「学びの統合を図り」という文章から、役割分担が出来ているかどうか、関連付けがなされているかどうかの問題ですので、関連付けがなされているかどうかを評価します。「戦略的データ処理」は入れません。
- ③ 評価については、会計学担当教員相互と実務家との連携の中で行います。改善については、学生ではなく教員が行います。教員や実務家だけでは無理なので、学部ガ

バランスや中立的な立場のコンソーシアムを入れなければなりません。統合授業のマネジメントについて評価する場合、コンソーシアム、第三者の機関ではなく、経済学で述べられている学内外の有識者によるピアレビューではないでしょうか。

- ④ 「実務家」と「専門家」の使い分けについて、実務家を企業で働いている人、専門家を公認会計士等と言うことも出来ますが、2つの言葉があると、文章が分かりにくくなります。

以上のような議論の結果、「3. 授業の点検・評価・改善」の文章を次のようにまとめました。

この授業の点検・評価・改善は、制度会計、内部統制、管理会計、会計情報システムなど多岐にわたる専門科目の関連付けがなされているかどうかを、会計の授業ポートフォリオ等を通じて会計学担当教員相互と実務家との連携の中で行う。さらに総合的な観点で統合授業のマネジメントについて学内外の有識者によるピアレビューを依頼し、その意見を参考に行う。

## 2) 教員の教育力

- ① この2つのモデルに沿った教員の指導能力を考えて下さい。
- ② 教員の教育力について、参考1、参考2をもとに説明されました。
- ③ 最終案を9月下旬までに作成する予定です。

## 次回の委員会

次回の委員会は、4月22日（日）午後、同志社大学琵琶湖リトリートセンターで開催されます。